

(6) 学校評価とつなげる

② 「学校評価」から学校課題を明確にする

こんな実践

生徒、保護者を対象に、これまで取り組んできた教育活動全般に関する「学校評価」を実施し、その評価結果を育成すべき資質・能力の視点から学校課題を明確にし、次年度の学校運営に関わるプロジェクトが始動した実践です。

実践学校 Y 中学校

実践時期 12月上旬～

- 本校では、生徒、保護者を対象に、これまで取り組んできた教育活動全般に関する「学校評価」を毎年実施し、その評価結果をもとに次年度の学校経営に生かそうとしています。
- 次のようなプロセスで「学校評価」を行い、その結果を踏まえて今後の改善策を検討しました。

【学校評価の内容検討】

- 質問項目の検討
- ※次の点を意識する。
 - ①学校教育目標とめざす生徒像と照らし合わせて（グランドデザインとつなげて）
 - ②育成すべき「資質・能力」の3つの柱とつなげて

【学校評価の実施】

- 教育活動全般に関するアンケートの実施 対象：生徒 保護者

【学校評価の分析】

- アンケート結果の分析
- ※着目するポイント
 - ①経年比較による差（前年度より低い項目）
 - ②生徒、保護者で、共通して数値が低い項目
 - ③生徒、保護者で、数値のばらつきのある項目
 - ④その他（自由記述項目）

【改善項目の決め出し】

アンケート結果から、「学校教育目標とめざす生徒像」と育成すべき「資質・能力」の3つの柱をもとに、次年度に向けた改善プロジェクトを具体的に決め出した。



ここがポイント！

「学校評価」における生徒・保護者等を対象としたアンケートの項目はどのように考えればいいですか？

- ✓ 既に各学校で実施しているものが学校教育目標やめざす生徒像とつながっているのか検討してみましょう。また、資質・能力の3つの柱とつながる項目を取り入れていくことで、教育活動を見直すきっかけになります。

○ 本校の学校教育目標は「きわめよう Y中らしさ 信頼 練磨 寛容」です。また、めざす生徒の姿として、「心をこめて取り組み、人や地域に貢献できる生徒」、「進んで学習や行事・諸活動に参加し、自分を表現する生徒」、「思いやりの心もち、人と協力・交流できる生徒」を掲げています。これらはまさに、生徒たちがこれからの未知の社会を仲間と共に生き抜き、地域の発展に貢献していくために必要な「資質・能力」とつながるものと捉えました。そこで、「学校評価」の質問項目について、「資質・能力」の3つの柱をベースにして、学校評価を分析しました。

○ 学校評価アンケート（学習面に関する質問項目）から「資質・能力」の3つの柱について分析しました。

【生徒アンケート】

		A	B	C	D	A+B	B+C
1	授業に関心を持ち、 すすんで意見や考え、感想を発表したり、活動したりした。	19	52	29	0	71	69
2	授業中に すすんで仲間と話し合い、考え合うことができた。	38	40	17	5	79	91
3	授業で学んだこと、 きちんと身に付けることができた。	17	57	21	5	74	77
12	人に流されるのではなく、自分で考えて判断したり、行動したりできる。	19	55	21	5	74	86
16	学級の活動の中で、意見や感想などを自由に言い合える雰囲気があった。	24	50	21	5	74	84
19	毎日のきちんと宿題ができた。	60	31	7	2	90	82
20	ふだん、家で宿題以外の勉強をしている。	26	17	43	14	43	49

(A：当てはまる, B：だいたい当てはまる, C：あまり当てはまらない, D：当てはまらない)

○ 「学校教育目標」や「めざす生徒像」、育成すべき資質・能力の3つの柱と、学校評価アンケートの質問項目との関連について【生徒アンケート】

- ①めざす生徒像「進んで学習や行事・諸活動に参加し、自分を表現する生徒」と関連した項目
項目1, 項目2, 項目16
- ②資質・能力：生きて働く「知識・技能」の習得
項目3, 項目19
- ③資質・能力：未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
項目1, 項目2, 項目12

【保護者アンケート】

		A	B	C	D	A+B	B+C
1	生徒たちは、 興味関心をもって、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。	48	48	3	0	97	98
2	学校では、わかりやすい授業が行われている。	36	58	6	0	94	92
3	生徒たちは、授業で学んだことをきちんと理解し、身につけている。	18	65	18	0	82	85
10	お子さんは、毎日きちんと家庭学習をしている。	32	44	21	3	76	83
14	お子さんは、 自分で考え、判断して話したり、行動したりすることができる。	32	35	21	12	68	86

○ 「学校教育目標」や「めざす生徒像」、育成すべき資質・能力の3つの柱と、学校評価アンケートの質問項目との関連について【保護者アンケート】

- ①めざす生徒像「進んで学習や行事・諸活動に参加し、自分を表現する生徒」と関連した項目
項目1
- ②生きて働く「知識・技能」の習得
項目3, 項目10
- ③未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
項目14

○学校評価から見えてきた点（経年比較を通して）【学校評価の分析】

【良い点】

- ・毎日の宿題に取り組み、提出ができています。
- ・授業に向かう姿勢も例年通り。

【課題】

- ・「すすんで仲間と話し合い、考え合うこと」という項目2では、昨年度よりも12%も低くなっているため、考えていく必要がある。
- ・「学んだこと、きちんと身に付けることができた」という項目3も、昨年度よりも3%低くなっている。また、保護者についても「授業でまなんだことをきちんと理解し、身につけている」という項目も昨年よりも3%減少している。
- ・生徒アンケートでは90%の生徒が宿題の取り組みについて概ね良いと答えているが、保護者は76%と低く、生徒と保護者での意識の差が見られる。
- ・学校生活について、「自分で考えて判断したり、行動したりする」といった項目を見た場合、生徒、保護者とも10%以上低くなっている。

○「資質・能力」の3つの柱をもとに、改善項目を決め出す。

【学習面の考察】

○「知識・技能」の習得に関わって

- ・学習の定着については、生徒、保護者とも実感があまりないため、日常の授業や家庭学習での取り組みについて考えていく必要がある。

○「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わって

- ・授業について向かう姿勢は良いが、仲間と話し合ったり、考え合ったりする点を工夫する必要がありそう。そのため、グループ学習を充実させるための対話的な学びのあり方について考えていく必要がある。

【宿題への取り組みの考察】

○「知識・技能」の習得に関わって

- ・宿題に取り組んでいるが、学んだことの定着とつながっていない。また、保護者も家庭学習をしているといった実感がなく、学校等で済ませている可能性もありそう。知識が定着する家庭学習を考えていく必要がある。

○「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わって

- ・自主学習ができていない現状がある。そのため、家庭学習のあり方について、どのような目的で取り組むのか考えていく必要がある。自分で取り組む課題を決め出すといったことを大切にしていこうとも考えていく必要がある。

【生活面の考察】

○「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わって

- ・生活面を見た際、「自分で考えて判断したり、行動したりする」項目が低くなっていることの改善を図るために、授業の中で思考力・判断力・表現力を育てていく工夫も必要である。

○学習面においては、毎日の宿題をきちんと取り組む生徒の割合が経年変化から増えてきていることを確認することができました。また、授業に向かう姿勢も概ね良好と言えます。しかし、ここ数年向上していた「授業中にすすんで仲間と話し合い、考え合うこと」の評価が減少しました。各教科の授業ではグループやペアによる追究を多く取り入れていたにも関わらず課題として明確になりました。

○学習の定着といった面においても、「定着」の自覚の数値が低くなったことも、経年変化の比較からわかりました。このことが家庭学習と関連していることもアンケート結果からも読み取れました。

○学校評価アンケートから学習面（授業や家庭学習など）について次の2点の課題が明確になりました。

- ・「知識・技能」の習得に向けた取り組み
- ・「思考力、判断力、表現力等」を育むための対話的な学びのあり方

そこで、この2点について次年度の学校運営に関わる「学習の定着と学力向上」をキーワードとしたプロジェクトを組織することになりました。



ここがポイント！

学校評価アンケートの結果から改善プロジェクトをどのように作り出せばいいですか？

- ✓ 学校目標やめざす生徒像，育成すべき資質・能力につながる質問項目について評価してみましょう。そして，達成度が低い場合は，その項目を高めるためのプロジェクトを立ち上げるようにしましょう。

まとめ

- ・生徒の家庭での様子や教育活動に対する保護者の満足度や期待度，子どもの学習に対する意欲や意識等，アンケートの結果を学校評価の資料として活用しましょう。
- ・学校評価アンケートをもとに，学校として育成したい資質・能力の視点で振り返ることで，学校としての課題が明確になるだけでなく，次年度に向けての検討事項が具体的にあげることができます。